

日本新経絡医学会報 2017年6月25日 【第7回日本新経絡医学会開催】

平成 29年 6月25日(日)に広島大学医学部 広仁会館において第7回日本新経絡医学会が開催されました。参加者は医師、鍼灸師、患者、医学生、鍼灸学生など総勢100名の参加者に会場していただきました。

開会式は会長の宇土博氏、副会長の茂原治氏による挨拶ではじまり、午前中は10題目からなる学術講演が発表されました。



写真1. 茂原副会長 挨拶

演題1で平郡恵子氏（キョセ北口皮フ科）は「帯状疱疹後神経痛の症例について」を発表されました。発症後1年8カ月を経過した帯状疱疹後神経痛に対し、新経絡治療を施行し良好な経過を辿っている症例を報告されました。

演題2で三谷昌弘氏（香川労災病院 放射線治療科）は「放射線治療科の外来で最近経験した症例ー帯状疱疹2例、放射線治療後の遅発性皮膚炎1例の新経絡治療ー」を発表され、新経絡治療によって放射線治療の副作用を緩和できることを報告されました。

演題3でブランランド由衣氏（鍼灸院 BRANLUND）は「学習障害・発達障害に対する新経絡治療の効果」を発表されました。脳の働きを抑制し発達障害を併発する恐れのある抗てんかん薬を服用し続けながらも、新経絡治療を行うことにより発達障害が改善されることを報告されました。

演題4で杉山平熙氏（すぎやま按腹鍼灸院）は「各病症の腹診と按腹法ーリウマチ・癌・脳溢血・膝関節症などー」を発表され、演題にある症例を元に、東洋医学を基礎とした「へそ按腹法」の特徴と具体的な方法、および臨床成果の一部を報告されました。

演題5で田島佐一郎氏（田島内科クリニック）は「慢性便秘症に対する新経絡治療の有効性」を発表され、新経絡治療施行者において、約73%の方々に効果が認められたことを報告されました。

演題6で春名優樹氏（医療法人 はるなクリニック）は「私の新経絡治療経験」を発表され、新経絡治療の十分な効果を達成するためには、各症例の必要治療回数の見極めなどが必要であることを報告されました。

演題7で倉橋徹氏（米子東病院 リハビリテーション科）は「頸髄損傷者の上肢痛に対する新経絡治療の経験ー麻痺側下肢から介入できた症例ー」を発表され、頸髄損傷者の上肢痛に対し、麻痺している下肢の対応穴からアプローチし、痛みの軽減がみられたことを報告されました。

演題8で白星伸一氏（佛教大学 理学療法学科）は「化学物質過敏症に対する新経絡治療の効果」を発表され、化学物質過敏症による種々の症状が軽減し、一定の効果が認められたことを報告されました。

演題9で桑原寛明氏（友和クリニック）は「レーザーによる井穴（せいけつ）治療の血圧及び脈拍に対する影響の研究」を発表され、両手両足第4指へのレーザー刺激後の最高血圧変化量で有意差を認め、また、年代によりレーザー刺激後の効果が異なるという実験結果を報告されました。

市民公開講座の記念講演では、本学会会長の宇土博氏（友和クリニック）が、「学習障害、発達障害の予防と新経絡治療－ADHD・注意欠如多動性障害を中心に－」を発表されました。



写真2. 宇土会長 講演

この講演で新経絡治療は、難治性であるADHD に対して以下のような効果が認められることを報告されました。①幼児から20代まで幅広い年齢層を対象に効果が期待できる②ADHD の中核症状である、多動、注意欠如に対して、明らかな効果を発揮する③新経絡治療と漢方薬という副作用の少ない治療で症状が改善し、現在問題になっている精神刺激薬への依存性の問題を解決できる④ADHD に生じる行動上や情緒的な問題などの二次障害の改善にも有効である。

今後、さらに ADHD の症例を蓄積し、新経絡治療プログラムを確立し、また、教育、就労支援機関との連携を構築していきたいと述べられました。



写真3. 白星先生と倉橋先生によるシンポジウム

続くシンポジウムでは、白星伸一氏（佛教学 理学療法学科）と倉橋徹氏（米子東病院 リハビリテーション科）が「リハビリ医療における新経絡治療の可能性」について発表されました。このシンポジウムで新経絡治療が、今後リハビリ医療でも発展が大いに期待できることを報告されました。

お楽しみの懇親会では、広島にあるフレンチレストラン和飲屋ビストロ・ド・イベントスさんに今年もケータリングをお願いしました。毎年ながら、あっという間に無くなってしまいう料理があり、イベントスさんがもてなす料理とサービスの人気に驚かされるばかりです。そんな美味しい料理とお酒で、活気と和やかなムードに包まれた懇親会となりました。



写真4. 懇親会

今年で7年目を迎えた日本新経絡医学会ですが、今回、リハビリテーション医療における新経絡治療の可能性が示され、大変有意義な学会になったように思われます。今後さらなる発展を皆様と共に歩んでいきたいと思っております。

また来年も本学会でお会いできるのを楽しみにしております。

ありがとうございました。

学会事務局